

芳賀・宇都宮LRTの車両



● 検討経過

- 平成28年 2月～芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会の専門部会の設置
 LRT車両部会 → 車両の基本仕様等の検討
 LRTデザイン部会 → 車両のデザイン検討
 10月 トータルデザインにおけるデザインコンセプトの決定
 『雷都を未来へ～LRTによるモビリティ都市の創造～』
 平成29年10月 LRT車両設計事業者選定委員会設置
 11月～公募型プロポーザルの実施
 平成30年 2月 設計事業者の決定（新潟トランスス(株)）
 5月～車両外観デザインのアンケート実施
 7月 外観デザインの決定
 11月 車両設計認可の申請
 平成31年 3月 車両設計認可の取得
 令和 元年12月～車両部品の調達など製造に着手
 令和 2年12月～車両愛称のアンケート実施
 令和 3年 4月 車両愛称「ライトライン」の決定

● 車両外装デザイン

芳賀・宇都宮の顔となり「雷都を未来へ」を具現化するデザイン

- ・まちの顔となる「独自性」
- ・地域固有の風土を感じる「雷の光（稲妻）」
- ・将来イメージを牽引する「先進性」

色彩

- ・トータルデザインのシンボルカラーである「黄色」は、宇都宮市・芳賀町の歴史や文化、地域特性などから導いた、両地域の個性を表現するストーリーを備えた色であるため、車両のメインカラーに据えた。
- ・また、雷の光を表現する「黄色」を引き立たせるため、背景色として、「ダークグレー」を用いた。

形状

- ・デザインコンセプトをより効果的に表現するため、ストーリーの中心をなす雷を表現する黄色が映える流線型の車両形状とし、「独自性」、「雷の光」、「先進性」を踏まえたデザインとした。

● 車両内装デザイン

快適な移動を全ての利用者に提供するデザイン

- ・高いバリアフリー性を確保するほか、全ての利用者が快適に利用できるよう、ユニバーサルデザインを採用。
- ・芳賀・宇都宮らしさを感じ、末永く市民・町民に親しみを持ってもらえるほか、来訪者等に地域性を感じてもらえるよう、芳賀・宇都宮地域の風土を感じさせる地域性の内装を一部に取り込む。

● 車両の基本仕様

項目	導入車両の基本仕様	備考	
軌間	1,067mm (狭軌)	将来的な既存鉄道への乗り入れを考慮	
	電圧	DC750V	国内で初めて750Vを採用
定員	約160人 (座席50席)	国内の低床式車両で最多となる定員約160人を確保 座席については、鉄道の通勤電車並に広い座席幅450mmとした上で、可能な限り座席数を確保	
走行性能	車両長	29.520m	軌道建設規程に基づき車両長30m以内
	車両幅	2,650mm	車内空間を広く確保し、より多くの輸送力を確保 国内の低床式車両における最大の車両幅2,650mm
	車両高さ	3,625mm (パンタグラフ折りたたみ時)	JR宇都宮駅西側への延伸を考慮
最急勾配	6.7%	軌道建設規程に定める最急勾配6.7%の走行を可能とした	
運転最高速度	70km/h		
運賃収受方法	ワンマン運転 (全扉にICカードリーダーを設置)	速達性・定時性の向上や、利用者の利便性を高めるため、全扉で乗降ができるよう、全扉にICカードリーダーを設置	

● 車両内装レイアウト

■ 定員数、座席数の確保

【定員数】

- ・車両長をできる限り延長させ、国内の低床式車両で最多となる「定員約160人」を確保

【座席数】

- ・鉄道の通勤電車並みに広い座席幅とした上で、可能な限りの座席数「50席」を確保

■ 車椅子スペースの設置

【車椅子スペース】

- ・1編成に2か所設置し、バリアフリー性を向上 (バリアフリー整備ガイドラインにおいては1編成につき1か所以上とされる)

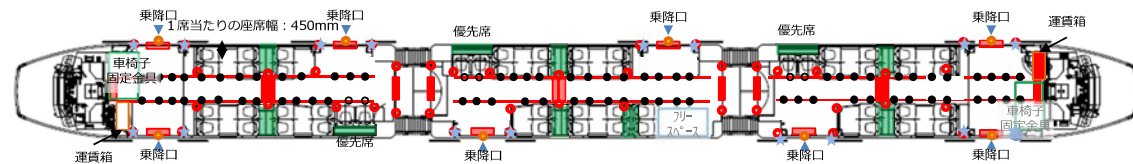
■ フリースペースの設置

- ・利用形態を限定しないフリースペースを中間車に設置
- ・ベビーカーや自転車などの持込み需要に対応

■ 全扉へのICカードリーダーの設置

【効率的な運営や人件費削減のため、ワンマン運転を実施【運賃収受方法】】

- ・ICカード利用を主体とし、速達性・定時性の向上や、利用者の利便性を高める
- ・全扉にICカードリーダーを設置し、全ての扉を活用した運賃収受を行う



凡例

□	座席	■	荷物置スペース	○	親手すり	—	手すり (天井)	●	一般つり革	○	低位つり革	●	ドア開閉ボタン (車内外)	■	車内モニター	★	ICカードリーダー
---	----	---	---------	---	------	---	----------	---	-------	---	-------	---	---------------	---	--------	---	-----------